

古川日出男・管啓次郎・小島ケイタニーラブ  
朗読劇「銀河鉄道の夜」東北ツアー

日程：2012年5月19日（土） - 21（月）

会場：大船渡（岩手）、仙台（宮城）、福島（福島）

昨年3月11日の東日本大震災と福島第一原発事故後の状況にあって、福島出身の小説家・古川日出男が新たに会い直したのは宮澤賢治の詩と物語でした。岩手県花巻を基点として宇宙を幻視する賢治への深い共振は、傷つけられた土地に住むすべての人々と動物たちにささげられた、小さいけれども強い祈りの声となりました。

朗読劇「銀河鉄道の夜」は、宮澤賢治の不朽の名作を、古川によるオリジナル脚本と朗読に、音楽家・小島ケイタニーラブが舞台音楽とオリジナル楽曲、そして詩人・エッセイスト管啓次郎が書き下ろしの詩をもって加わり、3人の特異な個性のぶつかりあいから生まれた、まったく新しい「賢治」の世界です。

昨年12月24日、Saravah東京で初演。満員の観衆に大きな感銘を与え、ついで本年3月11日、Rainy Day Books & Cafeにて改訂バージョンを上演。さらに変貌し進化するこの朗読劇を、2012年5月、東北各地に届けます。本ツアーでは、3名の他に、この企画に賛同する翻訳者の柴田元幸、詩人・批評家の小沼純一を特別朗読ゲストに招き、2部構成にて上演します。中学生・高校生からはじまり、どなたにもお楽しみいただける舞台です。物語と歌と詩の交錯する、小さくて強いひとときを、ぜひ体験ください。



ツアーの紹介、出演者への取材などのご検討をよろしくお願ひします  
各公演での現地取材なども承っております。お問合せ・ご相談ください

【イベント名】朗読劇「銀河鉄道の夜」

【出演】古川日出男（脚本）、管啓次郎（詩）、小島ケイタニーラブ（音楽）

【特別ゲスト】柴田元幸（大船渡、仙台、福島）、小沼純一（仙台）

上演日	開演時間	会場	料金
5月19日（土）	14時00分	大船渡リアスホール マルチスペース	無料
5月20日（日）	18時00分	せんだいメディアテーク スタジオシアター	1,000円
5月21日（月）	18時00分	福島市音楽堂小ホール	大人 1,000円 18歳以下 500円

主催：明治大学理工学研究科 管啓次郎研究室

協賛：明治大学震災復興支援センター 後援：大船渡市、岩手県教育委員会、仙台市、IBC 岩手放送

協力：株式会社朝日出版社、株式会社勁草書房、左右社、認定NPO法人国境なき子どもたち

★今秋9月には、第2回のツアーとして、岩手県住田町、花巻市ほかでの公演を企画中です。

★初演時の脚本は「現代詩手帖」2012年3月号に全文が掲載されています。

【公式WEB】 <http://milkyway-railway.tumblr.com/>

## 【出演者プロフィール & コメント】

### 古川日出男（ふるかわ・ひでお）

1966年生まれ。小説家。主な著書に『馬たちよ、それでも光は無垢で』（新潮社）、『LOVE』（新潮文庫、三島由紀夫賞）、『ベルカ、吠えないのか？』（文春文庫）、『アラビアの夜の種族』（角川文庫、日本推理作家協会賞・日本SF大賞）、『聖家族』（集英社）など。文学の音声化にも積極的に取り組み、2007年には雑誌「新潮」に商業文芸誌では初となる朗読CD『詩聖／詩声』を特別付録として発表。10年には「早稲田文学」に200分に及ぶ朗読DVD『聖家族 voice edition』を発表した。最新作は『ドッグマザー』（新潮社、12年4月末刊）。

あの震災以降、僕はずっと声の力のことを考えています。たとえば宮澤賢治の『銀河鉄道の夜』は、主人公のジョバンニの耳に届いたふしぎな声から、あの宇宙の旅が始まるのです。「銀河ステーション、銀河ステーション」とアナウンスする声です。同じその声に、僕たちも導かれてみようと思います。その声にそなえられている力を信じて、僕たちも列車に乗ってみようと思うのです。宮澤賢治は書いています——「この汽車は、じっさい、どこまででも行きますぜ」

古川日出男

### 管啓次郎（すが・けいじろう）

1958年生まれ。詩人、比較文学者、明治大学教授。主な著書に『コロンブスの犬』『狼が連れだって走る月』（いずれも河出文庫）、『斜線の旅』（インスクリプト、読売文学賞）、『野生哲学 アメリカ・インディアンに学ぶ』（小池桂一との共著、講談社現代新書）、『島の水、島の火』（詩集、左右社）など。主な翻訳にベンダー『燃えるスカートの少女』、サン＝テグジュペリ『星の王子さま』（いずれも角川文庫）など。2011年、野崎歓とともに『ろうそくの炎がささやく言葉』（勁草書房）を編集。

<http://monpaysnatal.blogspot.jp/>

心がぐるぐると独楽のように回転して、どこにも行かない日々が続きました。そんな日々に、何十年も前に賢治が記した言葉が、新しい音声に乗ってどこからか聞こえてきました。人の死はそれぞれ「ひとり」のものであり、それを悼むのもひとりがひとりを悼むしかないこと。とっさの行為に現われる勇気以上に尊敬すべきものは、たぶん人間の世界にはないこと。文学の言葉は人を「ひとり」の世界に送り返します。そこから勇気を得て、生きることに役立てる。その先にある新しい社会を、みんなで考えましょう。

管啓次郎

### 小島ケイタニーラブ（こじま・けいたにーらぶ）

1980年生まれ。作詞・歌唱を中心に音楽活動を行う。2009年、ロックバンド ANIMA として WEATHER/HEADZ よりデビュー。翌2010年、古川日出男、蓮沼執太、近藤恵介、鈴木雄介とユニット the coffee group を結成し、アルバム『ワンコインからワンドリップ』をリリース。2011年には ROVO 益子樹プロデュースによる ANIMA の2nd album『シャガール』をリリースし、切なさや陶酔感の溢れる世界観が絶賛された他、タイプライター等を使った独特のパフォーマンスにも注目が集まっている。

<http://www.keitaney.com/>

朗読劇「銀河鉄道の夜」音楽制作のため昨年、宮澤賢治の故郷・岩手県花巻に向かいました。薄暗い空の下、北上川の水の音を録音しながら、ぼんやりとイギリス海岸を見つめているとき、遠くから聴こえてきた電車の音が銀河鉄道のイメージと重なり、音楽が完成しました。もしかしたら賢治さんも同じ場所で耳を澄まし、銀河鉄道に乗り込んだのではないかと……そんな気がしています。朗読劇の当日は僕もそんな乗客の1人として、会場の皆さんと一緒に銀河鉄道の旅を楽しめたら、と思います。窓の外、一秒一秒変わっていく景色たちに早く出会いたくて、今からうずうずしています。

小島ケイタニーラブ

## 【特別ゲスト プロフィール】

### 柴田元幸（しばた・もとゆき）

1954年生まれ。翻訳家、東京大学教授。訳書にポール・オースター『ムーン・パレス』（新潮文庫）、トマス・ピンチョン『メイスン&ディクスン』、オースター『オラクル・ナイト』（以上、新潮社）、アーネスト・ヘミングウェイ『in our time』（ヴィレッジブックス）、ジョゼフ・コンラッド『ロード・ジム』（河出書房新社）など多数。著書に『つまみぐい文学食堂』（角川文庫）『それは私です』（新書館）『代表質問 16のインタビュー』（新書館）など。編著に『モンキービジネス』など。

### 小沼純一（こぬま・じゅんいち）

1959年生まれ。詩人。音楽・文芸批評／早稲田大学文学学術院教授。著書に『魅せられた身体』『武満徹 音・ことば・イメージ』（以上、青土社）『無伴奏』（アルテス・パブリッシング）ほか。

## 【関連書籍】

### 『春の先の春へ 震災への鎮魂歌／古川日出男、宮澤賢治「春と修羅」を読む』

（CDブック、左右社、2011年12月刊行）

「春と修羅」「青森挽歌」「永訣の朝」など賢治詩の代表作を古川日出男が全霊をこめて朗読する。小池昌代、管啓次郎によるエッセー、解説付。

<http://sayusha.com/sayusha/903500706.html>

### 『ろうそくの炎がささやく言葉』（管啓次郎／野崎敏編、勁草書房、2011年8月刊行）

明かりの消えた夜に1本のろうそくのまわりに集い、その明かりで朗読するための短い詩と物語のアンソロジー。谷川俊太郎、堀江敏幸、新井高子、ぱくきょんみ、小沼純一、柴田元幸、古川日出男ら、国内外31人の作家・詩人が参加して編まれた、東北のための言葉の花束。

<http://www.keisoshobo.co.jp/book/b92615.html>

<http://lemurmuredesbougies.tumblr.com>

### 『チェルノブイリ 家族の帰る場所』

（フランシスコ・サンチェス文、ナターシャ・ブストス画、管啓次郎訳、朝日出版社、2012年3月刊行）

1986年4月26日に起きた、チェルノブイリ原子力発電所の恐ろしい事故。このスペイン発のグラフィック・ノベル（漫画）は、住みなれた土地を突然に追われ、あるいは愛した土地に留まった〈家族3世代の物語〉を描いている。論争にもセンセーショナリズムにも陥ることなく、かの土地に生きた人々が「心」に抱いた情景が浮かび上がる。チェルノブイリは決して「遠く」の出来事ではない。漫画・物語が持つ力を通じて、本書はそのことを強く訴えかけている。

[http://www.asahipress.com/bookdetail\\_norm/9784255006383/](http://www.asahipress.com/bookdetail_norm/9784255006383/)



2011年12月24日 サラヴァ東京公演 © 大川景子

.....<本件に関するお問い合わせ>.....

## 【イベントに関して】

関戸詳子（勁草書房）〒112-0005 文京区水道 2-1-1 Tel. 080-4797-1809 [sekido@keisoshobo.co.jp](mailto:sekido@keisoshobo.co.jp)

【広報プレスに関して】 浦谷晃代 Tel. 090-4172-3563 [akiyoura@rio.odn.ne.jp](mailto:akiyoura@rio.odn.ne.jp)